

## 板倉聖宣が「たのしい」と「わかる」を対立させた意図と授業書

○滝 奈津子 北林 雅洋  
TAKI Natsuko KITABAYASHI Masahiro  
香川大学教育学部

キーワード：たのしい，わかる，仮説実験授業，授業書，教育目標

## 1. はじめに

本研究では，仮説実験授業の創設者である板倉聖宣が，1973年頃から「たのしい授業」を強調してきたことについて，どのような意図があったのかを明らかにし，その意図が仮説実験授業の授業書づくりにどのように反映されていたのかを検討する。

2. 板倉が「たのしい」を強調してきたこと  
に対しての3つの理解

これまで，兵藤友博，鋒山泰弘，田中耕治らの3つの異なる理解が示されていることを確認した。兵藤友博は「氏にとっては『たのしい』と『わかる』が表裏一体というよりは『たのしい』が優先する」<sup>1</sup>ものだと述べている。鋒山泰弘は，板倉が『わかる授業』から『たのしい授業』へと研究運動の目的の転換を行い，授業を考えるとときの最も重要で中心的なテーマとして『たのしい』ということ据えるようになった<sup>2</sup>ものにとらえている。また，田中耕治は「学習の『楽しさ』という観点から，従来の『わかる』という意味を問い直している」<sup>3</sup>ものだと述べている。

## 3. 板倉の意図

1970年代に入ってから板倉の著書や講演に「たのしい授業」と「わかる授業」を対立させて述べているものが出てきた。以下，代表例を挙げる。

◎板倉聖宣「たのしい授業—それはいかにして可能か」1973年4月（中部地区数学教育協議会の研究集会における講演，『仮説実験授業研究第2集』仮説社，1974年11月所

収）

◎「本誌の創刊をとりまくさまざまな状況『わかる授業』より『たのしい授業』へ」『仮説実験授業研究第1集』仮説社，1974年6月（仮説実験授業研究会編『楽しい科学の授業シリーズ 仮説実験授業研究[1][2]』ほるぷ出版，1982年10月所収）

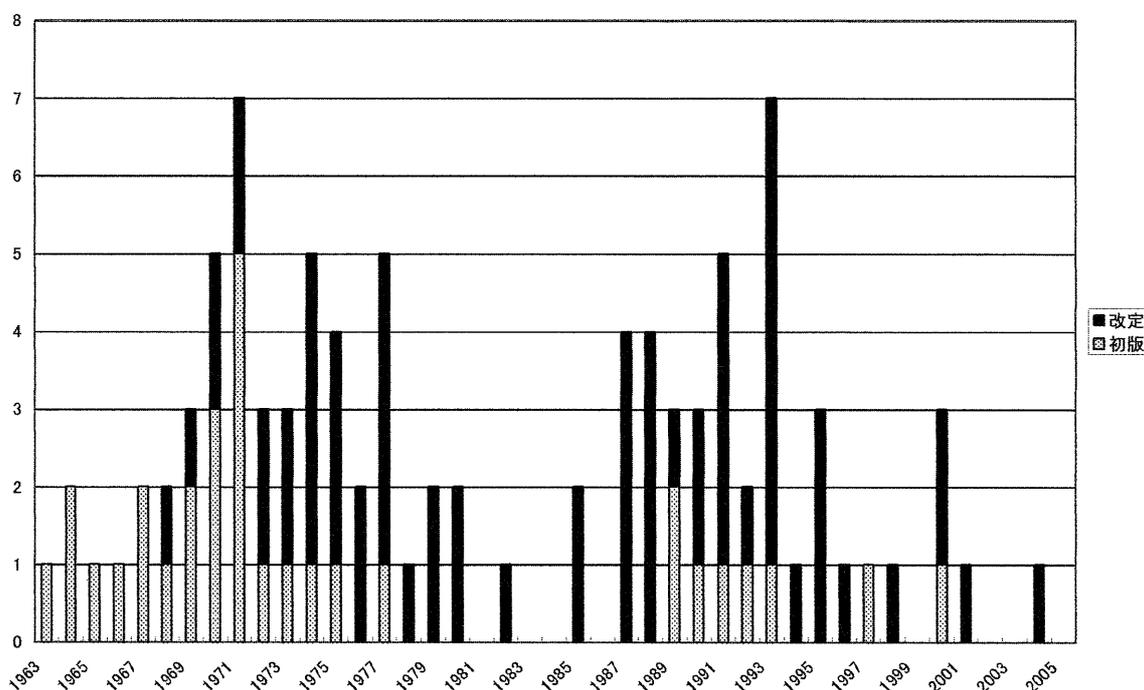
1977年の座談会で，教育目標を根底から見直すために，板倉は『楽しい』と『わかる』を故意に対立させる<sup>4</sup>とはっきり述べている。従来言われてきた「基礎学力だから教えなければならない」という考え方を否定し，子どもにとって「たのしい」ことを教えるべきであるということを板倉は主張している。つまり，板倉が「たのしい」を強調するようになった意図は，教育目標を選択するときの基準を明確にするためであったといえる。ところで，板倉は，本当に教えるに値するものかどうかの判断に関しても，次のように述べている。

「そのことが教えられたとするならば，それは具体的にはどんなことを意味することなのか」を吟味してみることである。これは「教育目標を明確にすること」といってもよいかも知れない。<sup>5</sup>

このことからわかるように，授業書は板倉にとって教育目標を具体化したものといえる。その，授業書の作成・改訂の発行年と出版数<sup>6</sup>をグラフでまとめてみると，1971年頃までに，初版が多く出版され，1970年から1980年にかけて改訂版が多く出版されていることがわかった。したがって，1970年代の

授業書改訂の際には、先に述べた教育目標を選択するときの基準としての「たのしい」が

位置づけられていたはずだと考えられる。



#### 4. 授業書の比較・検討

授業書作成・改訂の経緯を網羅的に整理している先行研究は見あたらない。そこで、1960年代と1970年代に初版が出され、改訂された授業書を比較・検討することで、授業書の作成・改訂にどのように「たのしい」が位置づけられているかをはっきりさせようと考えた。

現在、以下の授業書を比較・検討している。

《ふりこと振動》

1963年初版, 1965年版, 1974年版

《まさつと仕事量》

1964年初版, 1968年版, 1970年版

《重さと力》《浮力と密度》

1964年初版, 1969年版, 1974年版

《三態変化》

1965年初版, 1969年版, 1975年版

《宇宙への道》

1966年初版, 1970年版, 1977年版

《花と実》

1967年初版, 1974年版

当日は、これらの授業書を検討した結果も

含めて報告する。

- 1 兵藤友博「自然科学教育の『たのしさ』とは」『理科教室』1996年12号。
- 2 鋒山泰弘「教育の内容の根拠づけとして目的論を問うこと—自然科学教育の議論を素材として—」グループ・ディダクティカ編『学びのために授業論』勁草書房, 1994年, pp.236-237。
- 3 田中耕治「授業研究の現在—学びのための授業論をめざして」グループ・ディダクティカ編『学びのための授業論』勁草書房, 1994年, p.19。
- 4 板倉聖宣, 坂元忠芳, 中内敏夫, 中原克己, 志摩陽伍「座談会 到達目標と教育課程」『教育』1977年12月号, p.13。
- 5 板倉聖宣「授業書の作り方」『科学教育研究 No. 2』国土社, 1970年11月, p.13。
- 6 小野健司「〈授業書改訂〉の歴史入門—〈授業書改訂の基礎学〉の確立のために—」2006年仮説実験授業研究会「夏の大会」配付資料, 2006年7月。